

Gikyohan Times

No.0013

GIKYOHAN TIMES

2021年6月発行

教員免許更新講習「アクティブラーニング」講座

当社は岐阜県の全小中高校に教科書を供給し続けて100年以上の会社です。当社は岐阜県の全小中学校に「SCHOOL e-LIBRARY」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。各学校のログデータも毎月送り始めました。この度使用状況調査アンケートにご協力ありがとうございました。岐阜県の魅力として寺脇氏に全国に伝えてもらう参考にさせていただきます。商品の詳細情報は当社HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp>) のバナーでご確認もできます。岐阜県教販通信のバックナンバーもHPに記載しておりますのでご覧いただくと幸いです。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

私が講師を務める長崎県の教員のための免許更新講習「アクティブラーニング」講座のメインは、参加者がグループに分かれての「熟議」となっている。「熟慮」と「議論」を併せた言葉である「熟議」は、自由に議論をすることにより、各自の思考を深めるとともに、参加する全員の多種多様な考えを共有するイベントだ。結論や合意を目指すのではなく、さまざまな見方、考え方、感じ方があることを互いに知ることの意味がある。学校一斉休業の下、更新講習自体が中止になったコロナ禍の昨年を経て、今年わたしが提示した議論のテーマは、【コロナ禍になって、今まで思いもよらなかったことについて考えたこと。その中でも、何か自分のプラスになったこと】。

最初は、おっかなびっくり、何でも話していいのだろうか…と遠慮がちだった先生方も、時間が過ぎるにつれ、だんだん発言が積極的になってくる。

次々と出る意見は、
・一斉休業で、学校の役割がいかに大きいか、改めてわかった。
・ICTの威力を実感できた。・リモート授業だからこそできることがあるとわかった。
・漫然と続けてきた学校行事について、真に必要なものとそうでないものの区別をつけることができた。
・自分の生活を大切にする気持になった。
・家族など、自分自身の周囲にいる人々との人間関係を深めることができた。
・マスクと手洗いが感染対策にいかにか効果的かを実感した。
・家庭の中で新しいチャレンジができた。
・今までの常識を見直す機会になった。
・PTAの役割について深く考える機会になった。

・当たり前が当たり前でなくなる中で、新しい発想が出てきた。
・皆で感染防止に努力する日本人の国民性の良さを感じた。
・自分の仕事について、じっくり見直すことができた。
・部活動の意味を改めて考えることができた。
・リアルとバーチャルの違い、それぞれの利点、欠点をいかに考えるかが重要と思った。
・子どもたちのストレスをどう発散させるか、真剣に考えた。
・「変化への対応」がこれからの教育には重要だと思った。
・ICTを使ってみて、人間性を育てる必要性を実感した。

などなど多数に及んだ。

そして、2回目の「熟議」では、コロナ禍を経験した上で考えた新しい教育の必要性を議論したのだが、そこではこんな論点が中心となった。

人間力 多様性 柔軟な考え方 命と生活 キャリア教育 表現活動 ユーモア 体力 情報モラル マネー教育
いかがだろうか。長崎県の先生方がそうだったように、岐阜県の先生方も、コロナ禍に直面しているような新しい考えを持ったと思う。それを率直にぶつけ合い、議論することで、教育についての思いを深めることができるのではないだろうか。